

中小9社、共同で中国販売展開

上海に日本製品の常設展示室設置

大阪の中小アパレルメーカー9社が、中国・上海の上海マート(上海世界貿易商城)に常設展示室を開設、この展示ブースを核に、日本製品・日本企画製品の中国国内での本格的な販売に乗り出した。中国は消費市場として飛躍的に存在感が高まっているが、中小企業が合同で中国国内販売に乗り出すのは初めて。「メイド・イン・ジャパン」の人気は中国でも高く、参加企業の期待も大きい。

今回の事業を企画・運営するのは、レディースカットソーOEMメーカーのカスガアパレル(株)(本社・大阪府泉大津市春日町3-27)。2、3年前から中国アパレルメーカー向けに販売に乗り出しているが、今後の進展を模索する中で、常設展示室を設置して日本製品をアピールし受注につなげるという今回の事業の取り組みを構想。関西のアパレル企業などに呼びかけて説明会を3回開催し、最終的に取り組みに賛同した9社で上海マートに1社1坪の展示室を設置、上海マート主催の中国国内販売向けの展示会「Jモード」に合わせて5月21日にオープンした。

展示室は上海マート10階の15坪。参加企業は、カスガアパレル(カットソー製造)、東洋合織(カットソー製造)、アイストープ(ニットウエア製造)、ユニオン(ニットウエア製造)、K2カンパニー(日本企画のインド服)、吉田帽子(帽子製造)、丸祐(靴製造)、サクセスプランニング(防護服製造)、ジャント(子供服製造)の9社。

事業の運営は、カスガアパレルが展示ブースに専属の中国人女性スタッフ2人を常駐させて、百貨店や代理商(卸問屋)、専門店チェーンなどアパレル関係バイヤーから



上海マート10階展示ショールーム

受注を受けるスタイル。参加企業はオフィスの費用など年間約100万円の運営費がかかるが、受注から納品、代金回収はカスガアパレルが行う。また、常設展示室として2か月に1回くらいのペースで商品も入れ替えていく。営業活動の呼びかけは、上海マートが主催して年3回開催する中国国内販売向けの展示会を積極的に活用していく。今年は5月19日から21日に開催された「Jモード」のほか、8月のギフトショー上海、9月のIFF上海に繰り返し出展し、顧客獲得を目指す。日本市場が先行き不透明の中、参加企業の期待は大きい。

運営責任者の今井浩輔カスガアパレル専務は「メイド・イン・ジャパンと日本企画製品という二つの切り口で訴求していきます。中国人の志向はかつてのブランド志向から、日本でいうところのセレクトショップ志向に変化しており、中小アパレルの活躍の場が広がっています。中国国内での内販とともに、中国でものづくりしている欧米のバイヤーへの販売も視野に入れていきます。今後は、上海で収集した顧客リストを基に、来店の多い地域への展示ブースの立ち上げや、顧客の反応を把握するための小売店舗の開設を次のステップとして考えています」としている。